

地域の良さを見つけ、ふるさと環を大切にしていこうとする児童の育成
～ふるさとカルタの活用を通して～

1. 設定理由

本校は全校児童81名の小規模校である。広い学区に各家庭が分散しているため、自家用車による送迎やスクールバスで通学する児童が多く、登下校の際に自然とふれあうような機会は少ない。また、近所に児童が少ないため、休日は家の中でゲームをして過ごす児童が多く、友だちと山や川で遊ぶ児童はほとんどいない。そのため、本校児童は豊かな自然の中で生活しているにも関わらず、地域の自然の良さに気づいていない。また、2015年4月に関豊小学校と統合し、学区は更に広がっている。

このような現状から、児童が「自分たちが住む環は、こんなに良いところなんだ。」と感ずることができるようにするため、地域のことを知るきっかけとして『新・環ふるさとカルタ』、『関豊カルタ』を活用したい。そして、児童が地域の良さを見つけ、ふるさと環を大切にしていってほしいという願いから、本テーマを設定した。

2. 研究仮説

ふるさとカルタを通して、教職員や児童が学ぶ活動をしていけば、地域の良さに気づき、ふるさと環を大切にしていこうとする児童が育つであろう。

3. 研究内容

- (1) 各学年の発達段階に応じて、地域の良さを知る。
- (2) ふるさとカルタに詠まれている場所に出向き、研修する。(教職員)
- (3) ふるさとカルタに詠まれている場所に出向き、触れ合う。(1年生)(3年生)

4. 結論

○教職員が地域のイメージを持つことで、地域の良さを児童に伝えることができた。

○1年生は、カルタに詠まれた場所へ実際に行くことで、自分の住む地域の良さに目を向けることができた。また、カルタに詠まれた場所へ行った後、カルタで遊びながら知っていることを確かめ合う姿が見られた。

○3年生は、カルタに詠まれた場所へ実際に行ったことで、水の綺麗さや自然の豊かさに目を向け、地域の良さを盛り込んだ俳句を作り詠むことができた。また、俳句を通して他の人に環の良さを伝えたいという気持ちが高まった。

研究主題

地域の良さを見つけ、ふるさと環を大切にしていこうとする児童の育成 ～ふるさとカルタの活用を通して～

1. 主題設定の理由

(1) 地域の特性から

環地区は、富津市南東部に位置し、東西に湊川が流れている。地域は、標高30m前後でアップダウンが少ない平坦な地形がほとんどであるが、中には、山の奥から自家用車で通う児童も数人いる。この環地区は、北にはマザー牧場があり、南には水室山が広がる。湊川では、毎年鮎が釣れ、県内外から多くの釣り人が訪れる、大変豊かな緑と水に囲まれた自然の中にある。地域ではこうした自然や史跡、昔からの風習を今でも大切にしており、「魔除けの大わらじ」や「どんど焼き」など、積極的な活動が展開されている。環地区は、「自然に囲まれている」「史跡が多い」という良さがある。

(2) 児童の実態から

2015年4月に関豊小学校と統合し、広い学区に各家庭が分散している。距離は、学区の端から端までで約30kmある。全校児童の81人のうち、スクールバスを利用している児童は38人である。登下校の班は編成しているが、歩いて通わせたくても、一緒に歩く児童が次々と自家用車による迎えで帰るため、防犯上の理由から、約30人の児童が自家用車による送迎となってしまう現状がある。また、日常遊びに行く時も、自転車は使わず、自家用車で送迎をするような状況である。送迎の大人がいなければ外になかなか出かけられず、家の中でゲームをして過ごす児童が多い。

環地区は自然や史跡に触れる環境に恵まれている。しかし、これらの現状から、地域にある自然や史跡に触れ合う機会が少ない。その結果、美しい滝や川、歴史ある城跡など、環地区にある自然や史跡の良さに気づいていない児童が多い。

(3) ふるさとカルタと児童の関わりについて

【新環ふるさとカルタ】

『新環ふるさとカルタ』は、環南小学校と環小学校が統合することを記念して、2009年度に作成されたものである。『新環ふるさとカルタ』とは、環地区の自然や地域を詠んだものである。

本校は、『新環ふるさとカルタ』が作成されて以降、毎年児童集会でカルタ大会を行っている。カルタは、各教室に置いてあり、カルタ大会の練習に使うためだけでなく、日頃から休み時間等を通して児童たちは遊んでいる。中には、読み札を覚えてしまっている児童もいる。しかし、「読み札に書かれている場所はどこか?」「どのような様子か?」と尋ねてもわからない児童もいる。読み札と絵札は覚えても、そのカルタが地域のどこのことを札にしているのかわからない。カルタは本校で作ったものであるが、カルタを作成した本人は卒業している。また、2010年度の職員研修でカルタに詠まれている場所に赴き、児童が目につく児童昇降口前のホールに、カルタマッ

ブを掲示した。現在もカルタマップは掲示してあるが、異動により、カルタマップを作成した教職員は残っていない。児童だけでなく、教職員も環地区の地域の良さを知らないのが現状である。

【関豊カルタ】

『関豊カルタ』は、関豊小学校が閉校となる 2014 年度に作成されたものである。絵札は、写真となっている。関豊地区の地域や自然を詠んだものである。作成に携わった児童のうち、数名は在学している。2015 年度に関豊小学校と環小学校が統合し、各教室に『関豊カルタ』が置かれた。また、カルタ大会でも『新・環ふるさとカルタ』と『関豊カルタ』の両方を練習し、行っている。環小学校には、『関豊カルタ』の作成に関わった関豊小学校の職員は 1 人しかいので、ほとんどの教職員が関豊の良さがわからない。

(4) 学校教育目標から

【本校の学校教育目標】

自ら学び 心豊かで たくましい 環の子
～まなび きたえ ひびきあい～

【めざす児童像】

本校は、峰上地域（環地区）の自然や文化・伝統を生かし、家庭や地域社会との連携を深めながら、「よく学び・やさしく・がんばる」児童の育成を目指している。学校教育目標のうち、『よく学ぶ子（知）』『やさしい子（情）』『がんばる子（意）』を受けて研究を進める。

よく学ぶ子(知)

- めあてを持って、進んでとりくみ、学び合える。
- 基礎基本を身につけ、意欲的に勉強することができる。
- 地域を愛し、地域について語ることができる。

やさしい子(情)

- いつでもどこでも進んで明るいあいさつ・返事ができる。
- 思いやりの心をもって、誰に対しても親切にできる。
- 人と関わる力を持ち、感謝の気持ちが表せる。

がんばる子(意)

- めあてを持って最後までやりぬくことができる。
- 進んで運動に親しみ、身体をきたえることができる。

環地区に関豊地区が加わり、更に広い地域となった。児童たちが「自分たちが住む環は、こんなに良いところなんだ。」と感ずることができるようにするため、地域のことを知るきっかけとして『新・環ふるさとカルタ』、『関豊カルタ』を活用したい。そして、児童たちが地域の良さを見つけ、ふるさと環を大切にしていってほしいという願いから、本テーマを設定した。

2. 研究仮説

(1) 仮説

ふるさとカルタを通して、教職員や児童が学ぶ活動をしていけば、地域の良さに気づき、ふるさと環を大切にしていこうとする児童が育つであろう。

(2) 仮説について

本校は、2015年4月に関豊小学校と統合し、更に広範囲の学区となった。そのため、より豊かで広大な自然環境のもと、生活をしている。しかし、学区に新たにどのような自然があるのか、さらに、その自然の良さについて認識できている児童は少ない。

そこで本年度は、課題である「地域の良さに気づき、ふるさと環を大切にしていこうとする児童」の育成のために「地域の良さについて教職員、児童が知ること」に重点を置く。

そのために、児童にとって身近な『ふるさとカルタ』を使っていく。『ふるさとカルタ』は、2種類あり、それぞれ環地区、関豊地区の地域や様子がわかりやすく詠まれている。児童たちは、毎年行っているカルタ大会や生活科、総合的な学習の時間を通して、カルタに慣れ親しんでいる。しかし、カルタに詠まれた札の場所の良さについてわからない児童が多い。また、毎年の異動により、広大な地域の良さを知っている教職員も少ない。そこで、『ふるさとカルタ』を使い、地域の良さを知り、地域に積極的に出て学習していけば、自分たちが住むこの地域の良さに気づき、これからもふるさと環を大切にしていきたいと思う心情を育むことにつながると考え、仮説を設定した。

なお、本実践では、カルタに詠まれている場所に出向く学年である1年生と3年生の実践を中心に報告する。

3. 研究内容

仮説を検証するために、以下の活動を実践した。

- (1) 各学年の発達段階に応じて、地域の良さを知る。
- (2) ふるさとカルタに詠まれている場所に出向き研修する。(教職員)
- (3) ふるさとカルタに詠まれている場所に出向き触れ合う。(1年生)(3年生)

○実践

【指導計画】

(1) 知る	ア ウェビングマップ (事前調査) イ 読み聞かせ ウ 『新環ふるさとカルタ』、『関豊カルタ』で遊ぶ。 (1年生)
(2) 研修する	地域視察研修 (教職員)
(3) 触れ合う	ア さあ、みんなのでかけよう。 (1年生) イ 俳句を詠み、自然の良さに気づく。 (3年生)

(1) 各学年の発達段階に応じて、地域の良さを知る。

「たまき」はどんなところかな

- ・目的：自分や友だちが住む家の周りには、どのような自然があるのか知ることができる。
：『新・環ふるさとカルタ』や『関豊カルタ』（資料3～5）に慣れ親しむことができる。

・対象：1年児童

・内容

ア ウェビングマップ（資料6）

「みんなが住んでいる家の周りに何がありますか？」と児童たちに聞いてみたところ、通っていた保育所や小学校の隣にある中学校、小学校の近くにある公園、コンビニエンスストアの名前を挙げた児童がほとんどだった。

イ 読み聞かせ（資料7・8）

そこで、『みねがみのむかしばなし』の中にある「山姥と中沼の主のけんか」「石になったキュウリ」「大食らいまち」いう昔話を読み聞かせした。児童たちは、「姥石は、家の近くにあるよ。」「六所神社のところに石になったキュウリがあるのを知っているよ。みんなで見に行きたいな。」と話していた。自分の住む家の周りには自然や史跡について知っていることを話す姿が見られた。

ウ 『新・環ふるさとカルタ』、『関豊カルタ』で遊ぶ。

地域に出かける前に、『新・環ふるさとカルタ』や『関豊カルタ』で遊んだ。『新・環ふるさとカルタ』、『関豊カルタ』には、学区に伝わる伝承や史跡がわかりやすく書かれている。環小学校の児童たちは、カルタ集会や授業を通してカルタに慣れ親しんでおり、読み札を覚えてしまう児童も多い。1年生の児童たちにとって、双方のカルタで遊ぶことは初めてである。

「ほらごらん あれが魔除けの 大わらじ」「自然の恵み おいしい お不動様の水」など読んでいると、児童たちからは「知っているよ。」「滝の不動尊は行ったことがあるよ。」と次々と声が挙がった。読み札と絵札を対応させながら、「市民の森は、関豊地区にあるんだよ。」と担任が少しずつ知識も入れていった。何度もカルタで遊ぶことで、学区に出かけることを心待ちにしているようだった。

【カルタで遊ぶ児童の様子】



(2) カルタに詠まれている場所に出向き、研修する。(教職員)

地域視察研修

- ・目的：地域への理解を深め、学級経営や授業に生かす。
- ・対象：教職員
- ・内容：『新・環ふるさとカルタ』『関豊カルタ』を軸に学区内を巡った。

巡った場所と該当するカルタの読み札

- | | |
|------------|--------------------------|
| ○大楠の木 | 【鐘の音 響く大楠 興源寺】 |
| ○恩田川 | 【そおっと守ろう 恩田川の シロバネカワトンボ】 |
| ○六所神社 | 【にぎやかに お祭りをする 六所神社】 |
| ○滝の不動尊 | 【自然の恵み おいしい お不動様の水】 |
| ○地蔵堂の滝 | 【きらきらと 透き通る滝 地蔵堂の滝】 |
| ○姥石 | 【忘れ物 姥が落とした 関の姥石】 |
| | 【大女 伝説残る 関の姥石】 |
| ○高宕山自然動物公園 | 【何度でも 行ってみたいな 高宕山自然動物公園】 |
| | 【高宕山 ニホンザルの 楽園だ】 |
| ○野鳥の森 | 【野鳥観察 イノシシ発見 動物たくさん野鳥の森】 |
| ○市民の森 | 【春さくら 秋はもみじの 市民の森】 |
| | 【五月晴れ 広場につどう こいのぼりフェスタ】 |
| ○大わらじ | 【ほらごらん あれが魔よけの 大わらじ】 |

※千葉日報の掲載記事



【教職員の感想】

○県の天然記念物である大楠の木があったり、きれいな滝があったりとこんなに環小の周りに自然が溢れているなんて知りませんでした。児童たちと一緒に私たちも学び、ふるさと環に誇りを持てる児童を育みたいです。

(3) ふるさとカルタに詠まれている場所に出向き、触れ合う。(児童)

ア さあ、みんなでかけよう (1年生)

・目的：安全に気をつけてみんなで出かけ、地域の人や自然とふれあうことができる。

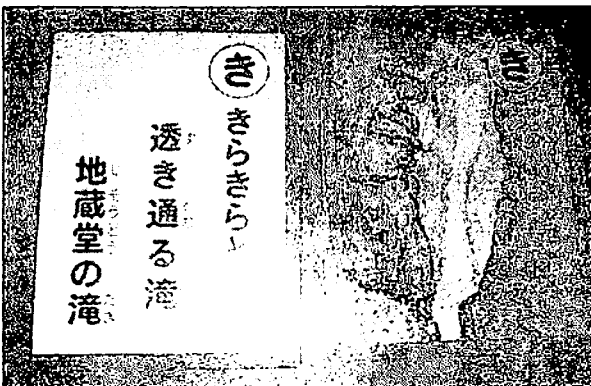
：季節を感じることができる。

・対象：1年児童

・内容：事前にウェビングマップをした結果から、児童たちは自分や友だちの住む学区の周りにはどのような自然や史跡があるのかわかっていなかった。そこで、『新・環ふるさとカルタ』、『関豊カルタ』に載っている自然や史跡を中心に、スクールバスに乗って出かけた。

巡った場所と該当するカルタの読み札 ※車窓から見た場所も含む。

- | | | |
|--------|-------------------------|-----|
| ○小泉酒造 | 【見せましょう 東魁盛の 酒造り】 | ※車窓 |
| ○田倉 | 【夜桜の トンネルきれいな 田倉の国道】 | ※車窓 |
| ○田原直売所 | 【豊かな恵み 人々集う 直売所】 | ※車窓 |
| ○志駒川 | 【せせらぎに かじかもおよぐ 志駒川】 | |
| ○地藏堂の滝 | 【きらきりと 透き通る滝 地藏堂の滝】 | |
| ○姥石 | 【忘れ物 姥が落とした 関の姥石】 | ※車窓 |
| | 【大女 伝説残る 関の姥石】 | |
| ○湊川 | 【すくすくと 大きくなあれ 鮎の放流】 | |
| | 【もくずがに 湊川の 宝物】 | |
| ○山里の市 | 【日曜日 野菜たくさん 山里の市】 | ※車窓 |
| ○市民の森 | 【春さくら 秋はもみじの 市民の森】 | |
| | 【五月晴れ 広場につどう こいのぼりフェスタ】 | |
| ○大わらじ | 【ほらごらん あれが魔よけの 大わらじ】 | ※車窓 |

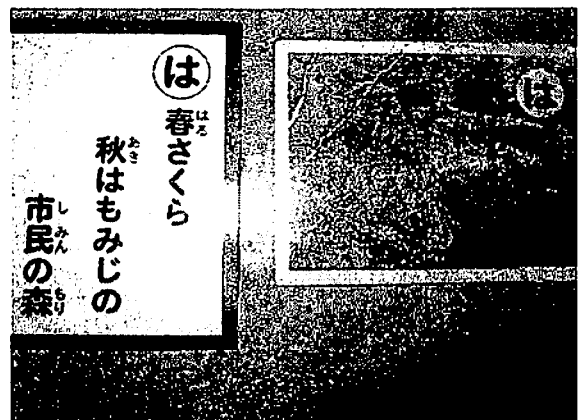


『新・環ふるさとカルタ』

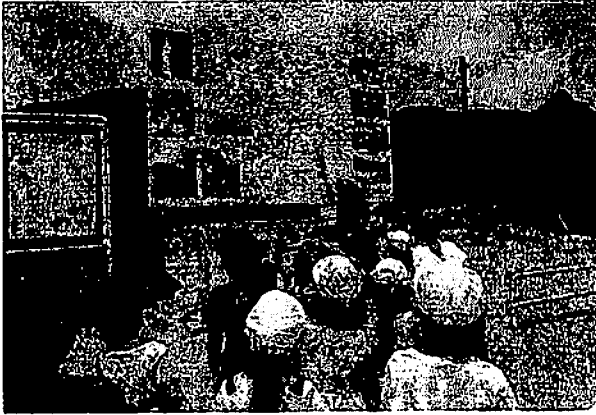
【きらきりと 透き通る滝 地藏堂の滝】

『関豊カルタ』

【春さくら 秋はもみじの 市民の森】



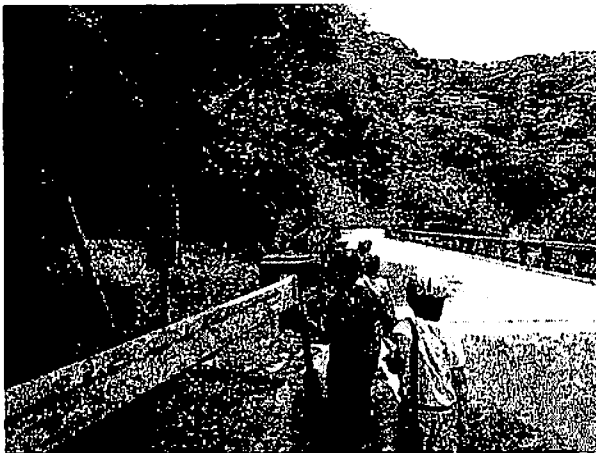
【活動の様子】



←志駒川近くにある水汲み場で、富津市の地図を見ている。「富津は広いね。」「僕たちは、今ここにいるんだ。」「知っているところがあったよ。」

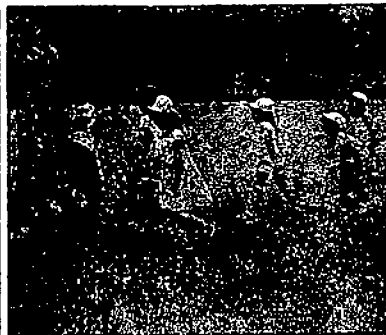
広い学区の為、1つの場所へ移動するにも時間がかかる。「さっきは、田倉にいて、今は志駒にいるからこんなに移動したんだね。」

地図を見ながらも、学区の広さを感じることができ驚いた様子だった。



←志駒地区にある地藏堂の滝へ。志駒地区は、旧環南小学校の学区である。環小学校から、車で10分ほどの所にある。道路に面した橋の上からのぞき込むように見ないと、滝が見えない。

児童たちと歩いて近づいていくと、「滝の音が聞こえるよ。」「見えてきたよ。」「ここから見えるよ。」「きれいだね。」「滝の音を聴いていると、涼しいね。」と次々につぶやいていた。初めて訪れる児童も多くいた。



←関豊地区にある富津市民の森へ。広大な芝生で元気よく遊んだ。「蝉の抜け殻があるよ。」「お花がきれいだよ。」「芝生が広いよ。」周りの自然にも目を向けていた。

1年生の児童は、14人おり、学区に出かけた感想を国語の学習に関連させて、絵日記で表現した。14人中12人の児童が、絵日記の中に行った場所を書くことができた。また、7人の児童が「水を触ったことが楽しかった。」「水がきれいだった。」「地藏堂の滝がきれいだった。」「木がいっぱいだった。」など、実際に五感を使って学区の自然について感じたことが書けている。

今回は、スクールバスで学区を巡ったのだが、それぞれの場所への移動時間がとても長く、「環小は、広いなあ。」と感じた児童が多かった。また、スクールバスの運転手さんが「ここにも昔は道があったんだよ。」など、車窓から見える景色を案内してくれた。児童たちは車窓からも「桜の木がたくさんあるよ。」「本当にトンネルみたい。きれいだね。」など、学区の自然の豊かさを感じることができていた。2学期は、徒歩で環小学校の周りを巡る予定である。

【児童の感想から】 ※絵日記を描きました。(資料9・10)

- ・みずをさわったのがたのしかったです。
- ・みんなといっしょにたぐらとんねるをみたからとってもすごかったです。
- ・しみんのもりで、A児といっしょにせみのぬけがらをとったよ。
- ・みずくみばのおみずが、きれいでした。
- ・しみんのもりでみんなでだるまさんがころんだをやりました。わたしは、おにはなっていないけど、でもたのしかったです。
- ・じぞうどうのたきを見ました。たきがきれいでした。
- ・みんなでしみんのもりであそんでたのしかったです。
- ・じぞうどうのたきがきれいでした。
- ・しみんのもりでみんなとあそんだことがたのしかったです。
- ・けしきがたのしかったです。きがいっぱいでしたのしかったです。
- ・しみんのもりでみんなとなかよくあそんだことがたのしかったです。
- ・ばすにのっておもしろかったです。
- ・だるまさんがころんだをしました。すごくてたのしかったです。

2学期に巡る予定の場所と該当するカルタの読み札

- 環小校庭 【おいでよおいで 一緒に登ろう チューリップツリー】
- 恩田川 【そおっと守ろう 恩田川の シロバネカワトンボ】
- 六所神社 【にぎやかに お祭りをする 六所神社】
【飛び込んで いたずらをした 寺尾のかっぱ】
- ちびっこ公園裏の山 【古き日の 歴史を伝える 環城】
- 姥石 【忘れ物 姥が落とした 関の姥石】
【大女 伝説残る 関の姥石】
- 大わらじ 【ほらごらん あれが魔よけの 大わらじ】
- 田原直売所 【豊かな恵み 人々集う 直売所】
- 滝の不動尊 【自然の恵み おいしい お不動様の水】

イ ふるさとかるた名人 (3年生)

- ・目的：学区の自然を五感で感じ、感じたことを俳句にすることができる。
- ・対象：3年児童
- ・内容：ふるさとかるたに詠まれた場所について、本で調べたり、見学に行ったりすることで、どんな様子なのかを詳しく知ることができた。また、札のひとつ「滝の不動尊」に行き周辺の自然や不動尊の水について俳句を詠む活動を行った。

【児童が詠んだ俳句】

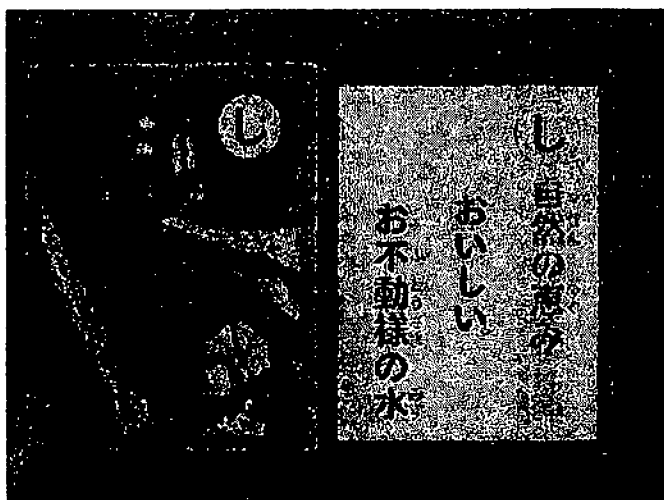
暑い日に そよかぜふいて すずしいな
こいきれい きらきら泳ぐ たいぐんだ
木の上に はちのすがあった こわいなあ
こいはなぜ いろんないろが あるのかな
水さわり 水がつめたい ほんとだな
木々のえだ せみがとまって 鳴いている
いけにはね こいがいっぱい いるんだよ
夏の昼 つめたいお水 さわったよ

木の上で 黄色のはちのす おもしろい
こいがいて 水がきれいな ふどうそん
夏の空 つめたい水を さわったよ
きれいだな 夏のこいいるばしょ ふどうそん
こいながれ みんなでおよぐ たのしいな
こいの中 みんなで見ると きもちいいな
水の中 コイが泳ぐよ きれいだな
プラム食べ 水であらった おいしいな

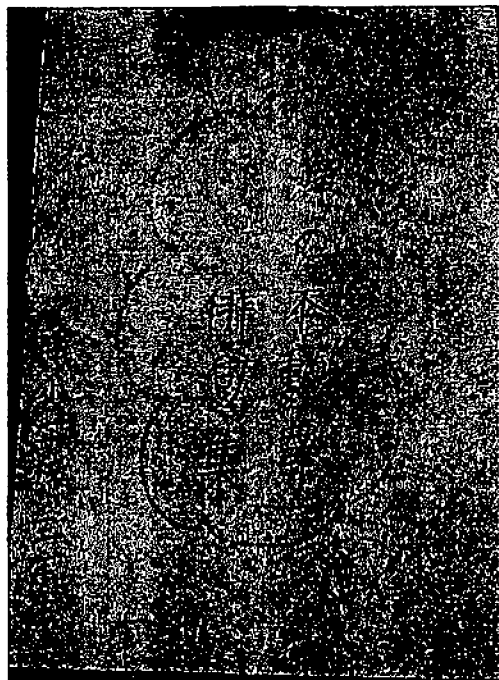
国語の俳句創りの最終段階として、学区にある「滝の不動尊」に俳句を詠むために出かけた。学校から片道約45分かけて歩いて行った。澄み渡る青い空、日陰を探し歩く道、道すがら活動をする虫たち。休憩をする度に、思ったことや感じたことを句帳に書き込んでいた。滝の不動尊に着くと、地域の方から新鮮なプラムをいただいた。そのプラムを食べながら、俳句を創る児童。透き通った水に触れたり、飲んだりしながら感じたことを俳句にする児童。気持ちよさそうに泳ぐ鯉を見て俳句を創る児童。一人ひとり生き生きと俳句を創っていた。創った俳句の中から、お気に入りの俳句を短冊に書き、短冊をまとめて『滝の不動尊俳句集』を作り、地域の方に届けた。

『新・環ふるさとカルタ』

【自然の恵み おいしい お不動様の水】



『滝の不動尊 俳句集』



4. 結論

〈成果〉

- 1年生は、『ふるさとカルタ』で遊ぶことで、地域について知ることができ、興味・関心が高まった。
- 教職員が地域のイメージを持つことで、地域の良さを児童たちに伝えることができた。
- 1年生は、カルタに詠まれた場所へ実際に行くことで、自分の住む地域の良さに目を向けることができた。また、カルタに詠まれた場所へ行った後、カルタで遊びながら知っていることを確かめ合う姿が見られた。
- 3年生は、カルタに詠まれた場所へ実際に行ったことで、水の綺麗さや自然の豊かさに目を向け、地域の良さを盛り込んだ俳句を作り詠むことができた。また、俳句を通して他の人に環の良さを伝えたいという気持ちが高まった。
- 他学年も『ふるさとカルタ』を盛り込んだ計画を立てたことで、地域の良さに目をむけられるようになってきた。(資料11)

〈課題〉

- ▲2年生と4年生については、カルタに関する研修を積み、学習計画を作っていく必要がある。
- ▲今後も、『ふるさとカルタ』に詠まれた場所を巡り、地域の良さに気づき、発信できるようにしたい。
- ▲『ふるさとカルタ』を軸とした計画を積み重ねていく必要がある。

5. 終わりに

本校では、『新・環ふるさとカルタ』が作成されて9年が経つ。その間、児童たちはカルタに詠まれた場所へ実際に足を運んだり、感じたことをまとめたりしてきた。また、カルタ大会も毎年行われ、カルタは児童たちにとってより身近なものになってきた。

3年前に関豊小学校と統合し、『関豊カルタ』が作成された。児童たちにとっての環小の周りという地域がより広がった。その中で、今回は両方のカルタに詠まれた場所について知ることができた。

自分のふるさとを愛し、誇りを持つ。どんな場所があるのか、「環は、こんな良いところなんだよ。」と良さを語る児童たちになってほしい。そのためには、児童だけでなく、教職員も地域の自然、環境を知り、良さを伝えられるようにならなければならない。

今後も『新・環ふるさとカルタ』『関豊カルタ』に詠まれた場所を巡り、環の自然の豊かさや環境の素晴らしさを児童たちと共に学び、伝えていくことができる環小学校でありたい。

資料

- 1 峰上タイム
- 2 新環ふるさとカルタ（2009年度作成）
- 3 関豊カルタ（2014年度作成）
- 4 ウェビングマップ
- 5 『みねがみのむかしばなし』（2014年）
- 6 絵日記
- 7 若鮎放流（5・6年生の実践）

〔総合的な学習の時間における環境教育計画〕

【峰上タイム】

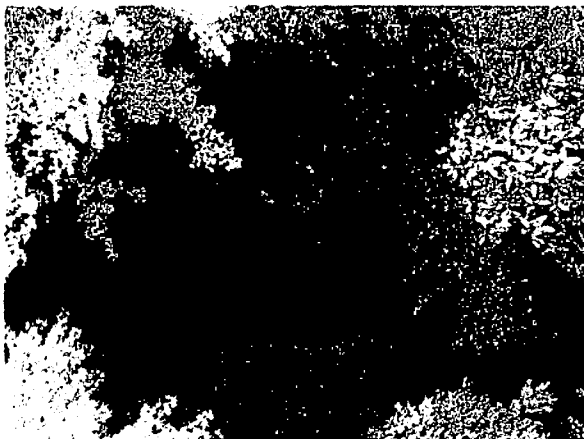
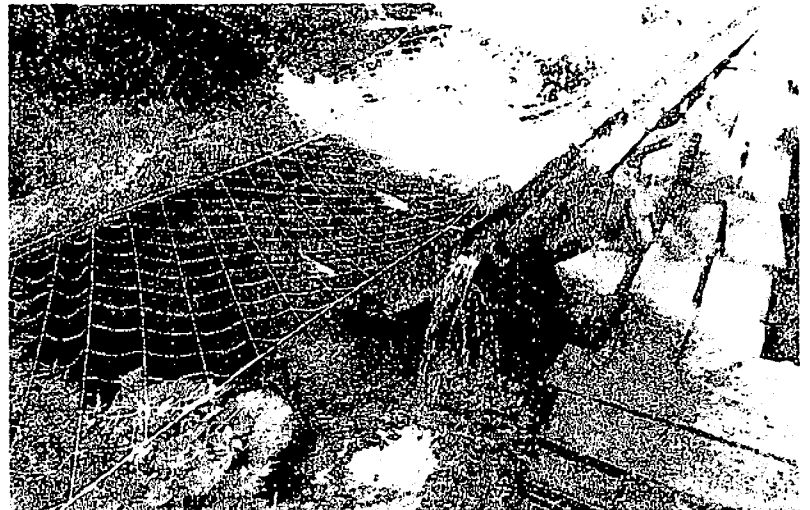
『新・環ふるさとカルタ』『関豊カルタ』（※資料2・3）を中心に、児童の実態や教科との関連、教職員のねらいなどに応じて、地域素材に年間1つ以上とりくむ。年度末に『地域学習素材 実施記録』ファイルに記録しておく。

地域素材の例：かにこ汁、エコクッキング、太巻き寿司、環城の見学、大わらじ、興源寺の大楠、お不動様の水、シイタケ栽培、直売所、高岩山のサル、恩田川のトンボ、竹の子料理、六所神社、地藏堂の滝、志駒川、鮎の放流、九十九トンネル、源氏水、もみじフェスタ、酒造り 他
※太字は、環境教育に該当する。

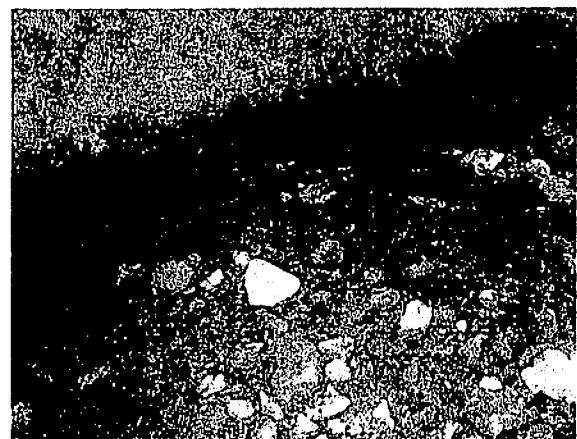


←興源寺の大楠（県の天然記念物に指定されている。）

↓滝の不動尊



↑地藏堂の滝



↑湊川（鮎の放流）

平成29年度 総合的な学習の時間 年間実施計画一覧

資料2

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
3年	峰上タイム										
	全校遠足	わたしたちの富津市			運動会	福祉体験	スーパーマーケット見学		感謝の気持ちを伝えよう		
	外国語活動										
4年	峰上タイム										
	全校遠足	宿泊学習			運動会	福祉体験	1 / 2 成人式		感謝の気持ちを伝えよう		
	外国語活動										
5年	峰上タイム										
	全校遠足	宿泊学習			運動会	工場見学	あさひとの交流	ようこそ環小へ	感謝の気持ちを伝えよう		
	外国語活動										
6年	峰上タイム										
	全校遠足	修学旅行			運動会	学校要覧作成	職場体験	環の歴史	感謝の気持ちを伝えよう		
	外国語活動										

【峰上タイム】「新・たまきカルタ」「関豊カルタ」を中心に、児童の実態や教科との関連、担任のねらいなどに応じて、地域素材に年間一つ以上取り組んでください。年度末に『地域学習素材 実施記録』ファイルに記録してください。

地域素材の例：かにこ汁、エコクッキング、太巻き寿司、環城の見学、大わらじ、興源寺の大楠、お不動様の水、シイタケ栽培、直売所、高宕山のサル、恩田川のトンボ、竹の子料理、六所神社、地藏堂の滝、志駒川、鮎の放流、九十九トンネル、源氏水、もみじフェスタ、酒造り 他

新環ふるさとカルタ（2009年度作成）

あ	朝読書 本は心の 栄養だ
い	いつきても 花いっぱい 環小
う	宇藤原 地名の由来は 善知鳥から
え	笑顔 さわやか 渚の姉弟
お	おいでよおいで 一緒に登ろう チューリップツリー
か	鐘の音 響く大樟 興源寺
き	きらきらと 透き通る滝 地藏堂の滝
く	雲流れ 水室の山に 虹がたつ
け	経験楽しい 昔を体験しよう 集会
こ	今年も 縦割り班で競う 長縄跳び
さ	さわやかな 水音響く 黒滝だ
し	自然の恵み おいしい お不動様の水
す	すくすくと 大きくなあれ 鮎の放流
せ	せせらぎに かじかもおよく 志駒川
そ	そおっと守ろう 恩田川の シロバナカワトンボ
た	高宕山 ニホンザルの 楽園だ
ち	調理して みんなで食べた かにこ汁
つ	釣り人の ねらう獲物は 鮎ウグイ
て	手のひらで きれいに光る 源氏ボタル
と	飛び込んで いたずらをした 寺尾のかっぱ
な	何人も 児童を授けた 若宮八幡
に	にぎやかに お祭りをする 六所神社
ぬ	ぬれた手に 歴史を伝える 源氏水
ね	願いこめ 残さず食べた おお喰らいまち
の	農民の 信仰厚い 馬頭観音
は	春の幸 お膳をにぎわす 竹の子料理
ひ	ひぐらしの 声に埋もれる 五輪塔
ふ	古き日の 歴史を伝える 環城
へ	平和を願い 歌い継がれた この校歌
ほ	ほらごらん あれが魔よけの 大わらじ
ま	マザー牧場 四季折々の 花景色
み	見せましょう 東魁盛の 酒造り
む	昔から 受け継がれてきた しいたけ栽培
め	目あてもち 走り続ける 体力づくり
も	森の道 便利さ求めた 九十九トンネル

や	山里に 雄大に立つ 大いちょう
ゆ	豊かな恵み 人々集う 直売所
よ	夜桜の トンネルきれいな 田倉の国道
ら	らくじゃない もみじフェスタの 山道コース
り	両手をあわせ お祈りをした 雨乞いの釜
る	るり色の カワセミの翼 きれいだな
れ	列をなし みんなでめざせ マザー牧場
ろ	路肩から 見渡す限りの 九十九谷
わ	忘れ物 姥が落とした 関の姥石

関豊カルタ (2014 年度作成)

あ	安全を守る 関豊ちゅうざい所
い	いじめゼロ みんななかよし 関豊小
う	運動会 勝っても負けても くいはなし
え	ABC みんな大好き 英語学習
お	大女 伝説のこる 関の姥石
か	合唱は 関豊小の 自まんだよ
き	きれいだな 門出を祝う サクラソウ
く	くじけない ゴールめざした マラソン大会
け	けずられて 形は犬岩 川の中
こ	心こめ ひびく歌声 関豊合唱団
さ	五月晴れ 広場につどう こいのぼりフェスタ
し	小学生と中学生 力を合わせて 地域清掃
す	すこやかに 育つ児童に 志組の牛乳
せ	全国に 三味線の音 とどろかす
そ	卒業式 涙いっぱい 歌いっぱい
た	竹燃やし 無事を祈る どんど焼き
ち	ちびっ子まつり 今日1・2年が 隊長だ
つ	つくりだす 喜び感じた 学習発表会
て	伝統を つくりつないで 関豊小
と	東光院 関豊小の 発祥地
な	何度でも 行ってみたいな 高宕山自然動物公園
に	日曜日 野菜たくさん 山里の市
ぬ	ぬくもりで 1年生を むかえる会
ね	願いこめ 大きく育てと わかあゆ放流
の	乗りこなす 全校みんなが 一輪車

は	春さくら 秋はもみじの 市民の森
ひ	ひこぼしと おりひめ出会う セタ音楽集会
ふ	古きをたずね 思い出つくれた 修学旅行
へ	変身だ お化けやしきだ ハロウィンだ
ほ	放課後に みんなで遊ぶ シニア館
ま	豆まいて 鬼を追い出し みなよい子
み	みんなだね 楽しく食べる なかよし給食
む	昔のね 家を支えた 石山の石
め	目の前に 広がる景色 パノラマ広場
も	もくずがに 湊川の 宝物
や	野鳥観察 イノシシ発見 動物たくさん野鳥の森
ゆ	優勝を めざせ全力 ドッジボール大会
よ	よいしょこらしよで おいものしゅうかく
ら	ランドセル 背負ってうれしい 入学式
り	リズムうきうき 心うきうき 歌えば楽し関豊校歌
る	るんると 心がはずむ 春と秋の遠足
れ	歴史ある 浅間神社の 秋祭り
ろ	六地藏 雨でも雪でも みな守る
わ	輪をつくり おどって楽しい 関豊音頭

新環ふるさとカルタ (2009 年度作成)

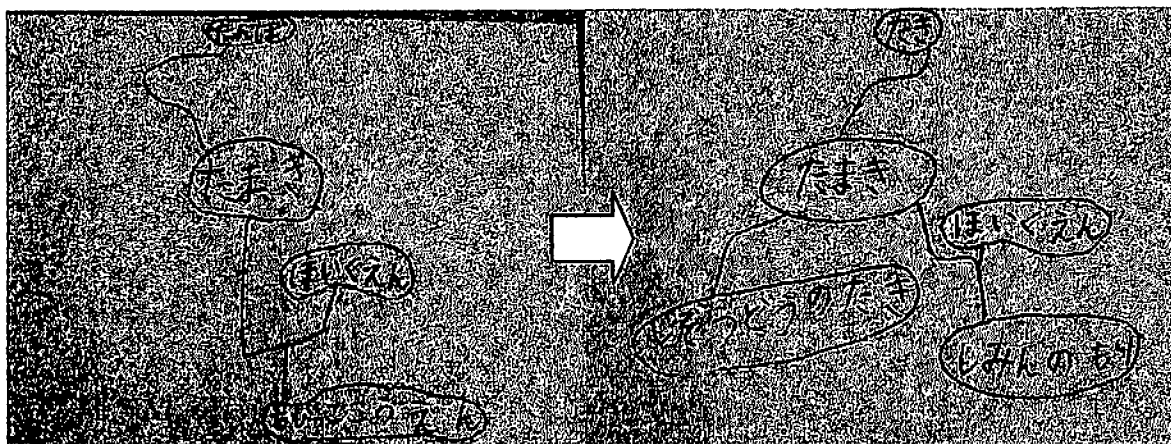


関豊カルタ (2014 年度作成)



ウェビングマップ（1年生）

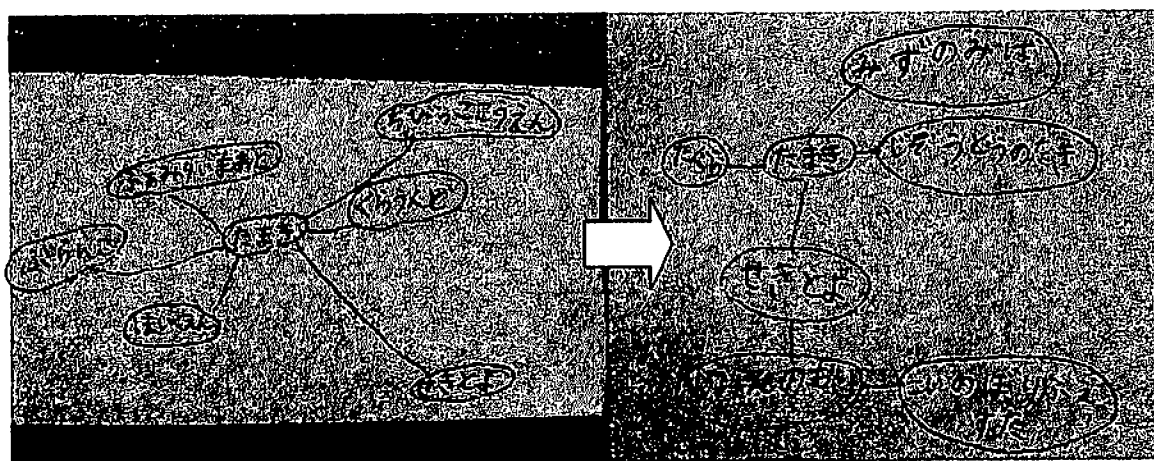
【事前】A児



環小の周りにある保育園、公園、田んぼの3カ所のみ挙げている。A児は、環小の近くに住んでおり、他の地区の自然や場所について書くことができなかった。

「地蔵堂の滝」や「市民の森」など行ったことがある場所の名前をすらすらと挙げることができた。

【事前】B児



B児は、6カ所を挙げている。関豊は、B児が住む地区だが、「市民の森」や「姥石」などB児の家の周りにある場所をわかっていない。

また、グラウンドやブランコといった小学校にあるもの、保育園や公園、コンビニエンスストアなど学校の周りにある建物は書くことができています。

B児は、車窓から見た田倉地区、途中でバスから降りて見た「水汲み場」などすらすらと書くことができた。「市民の森」、「地蔵堂の滝」も「みんなで遊んだよ。」「水がきれいだったよ。」と思い出していた。更に、「市民の森」で行われている「こいのほりフェスタ」も書いていた。

『みねがみのむかしばなし』(2014年)



表紙について

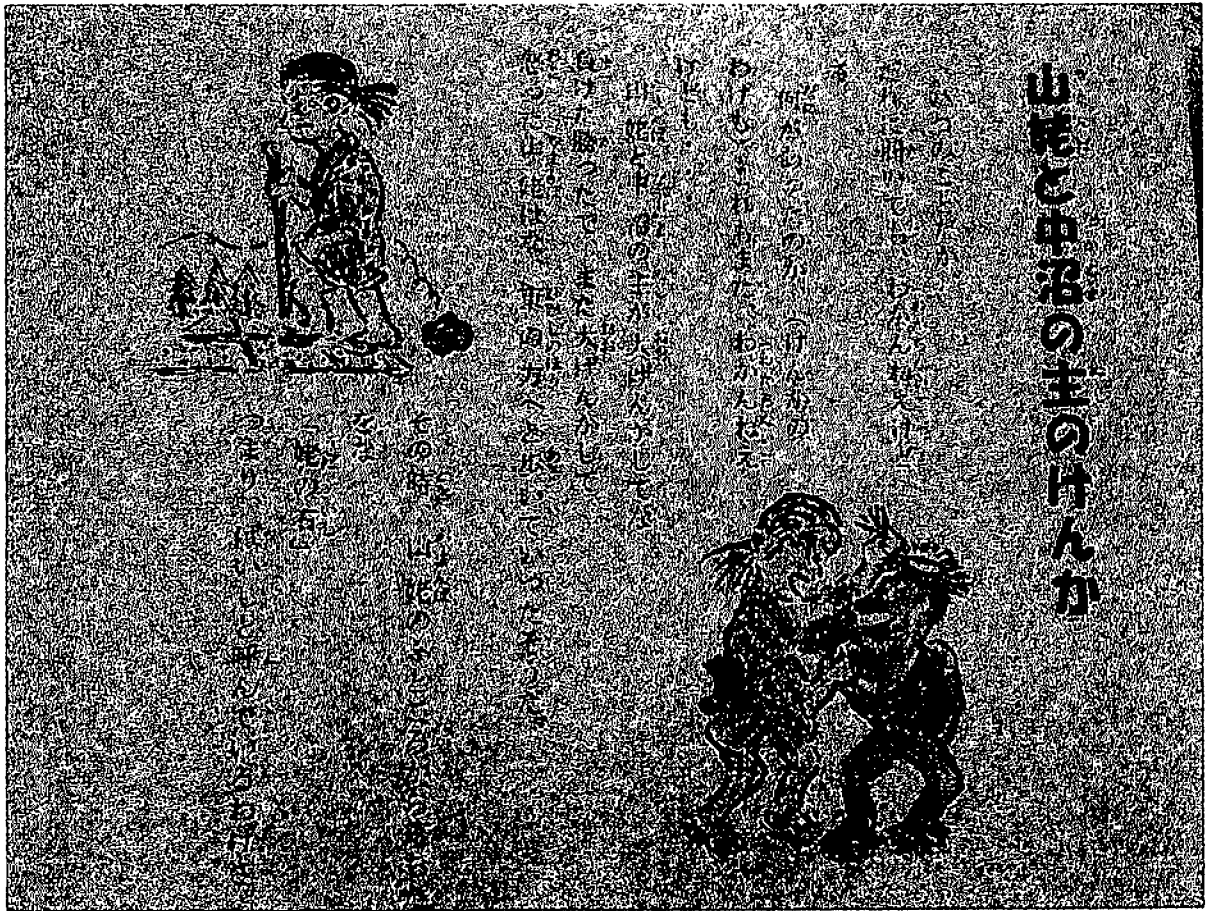
関の大わらし

「この村には、こんな大きな草鞋をはく大男がいるぞ。だから、悪いものは、入ってくるな」というおまじない。

峰上のむかしばなしは、今から60年ほど前、作者のうちのみさお先生が高校2年生から3年生のころ、峰上にお住まいのおじいさんやおばあさんからお聞きしたお話を記録したメモを、自分の考えを加えることなく絵と文にまとめたものです。

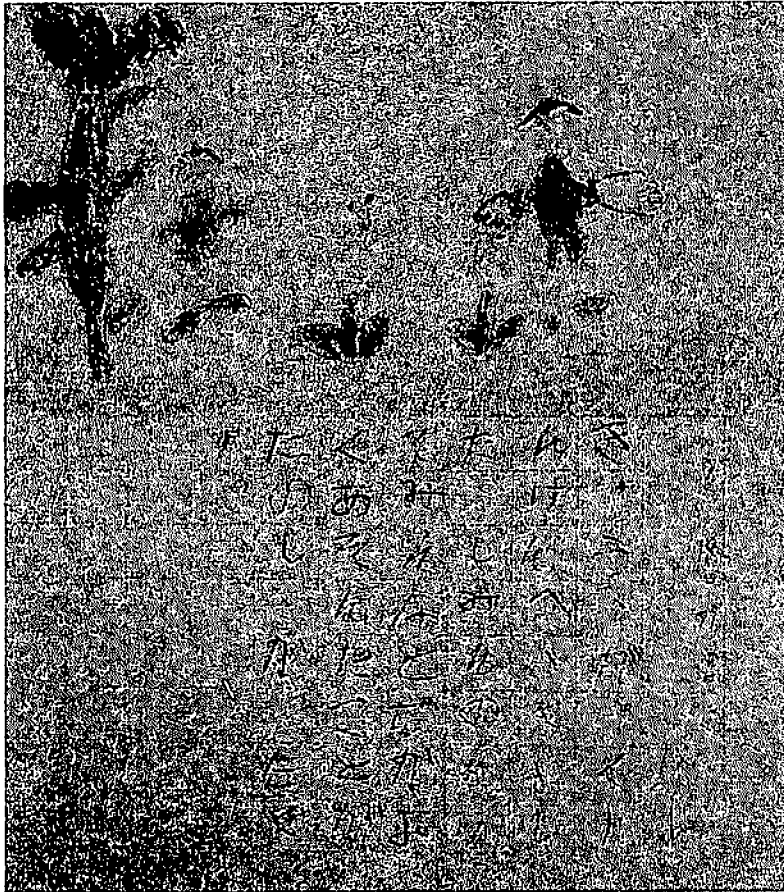
60年以上も前のおじいさんやおばあさんが児童のころ、お父さんやお母さんをはじめ、おじいさんやおばあさんから聞いた昔話ですので、百年または、それより昔から語り継がれてきた昔話ということになります。

※『みねがみのむかしばなし』より抜粋

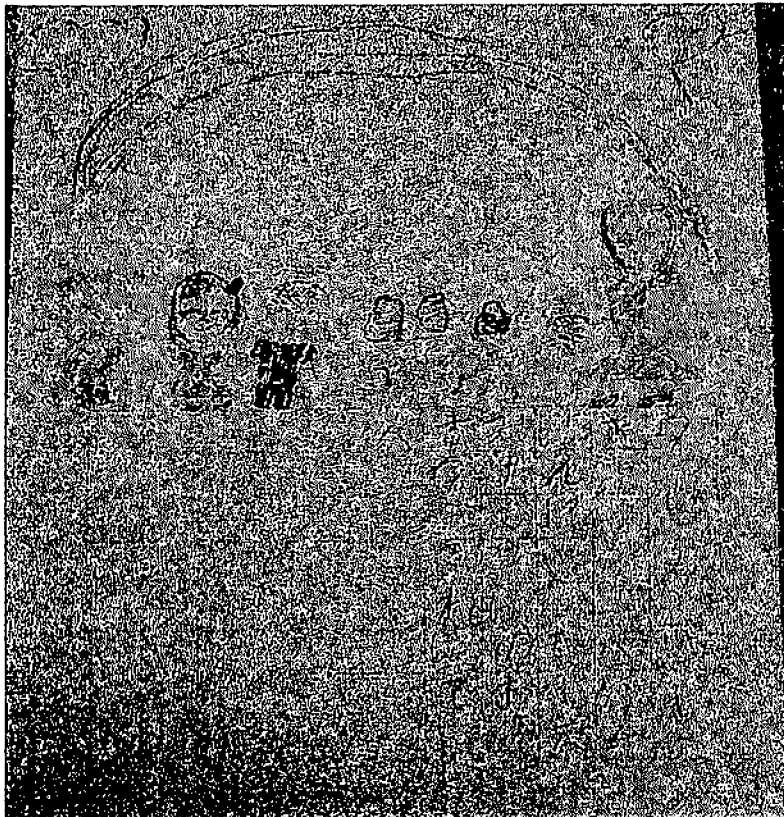


『みねがみのむかしばなし』の中には、全部で14編のお話が載っている。児童たちには、その中で「山姥と中沼の主のけんか」と「石になったキュウリ」を読み聞かせした。「山姥と中沼の主のけんか」は、現在も関豊地区にある姥石の由来になったお話である。どちらのお話も『西かずさ昔むかし』の本の中にも、「関の姥石」「寺尾の河童」として載っている。

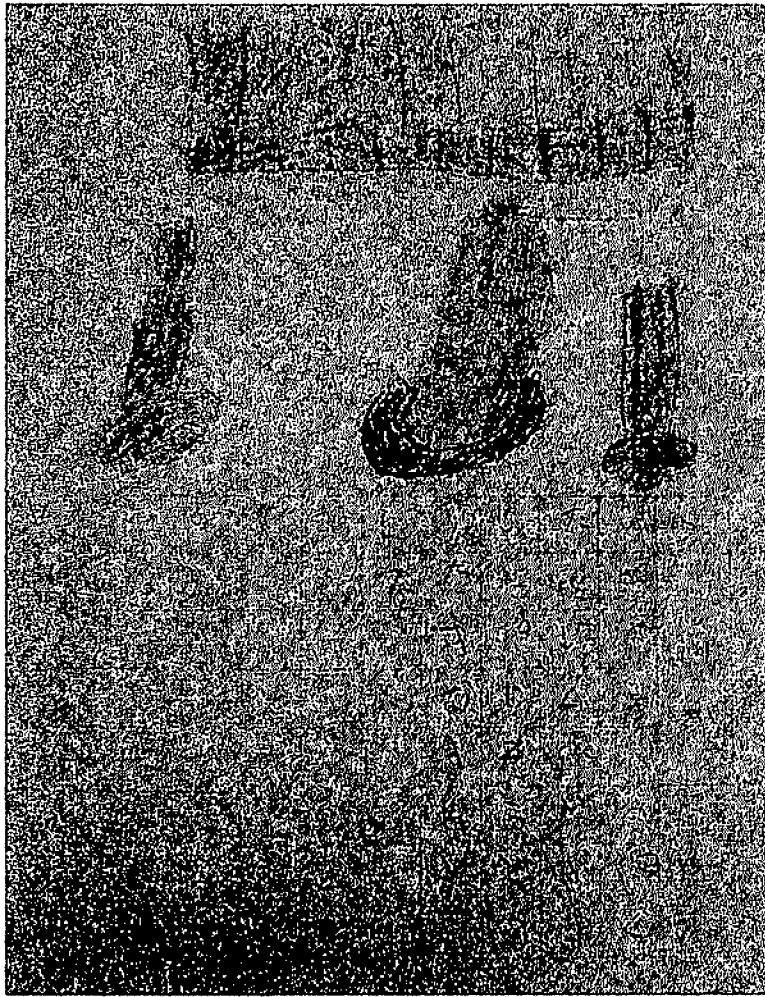
- 『みねがみのむかしばなし』
- しっぽで書いたという掛け軸
 - お公家さんに化けたむじな
 - 千手院の観音様
 - 田倉の椀貸し
 - 山姥と中沼の主
 - 足あとが田んぼになった
 - 石になったキュウリ（寺尾の河童）
 - 高岩山の水もらい
 - 大食らいまち
 - よる わらを うたない
 - くらこ鳥
 - 源氏水
 - 弘法の井戸
 - 姫ご淵



しみんのもりで
みんなとなかよく
あそんだことが
たのしかったです。



みずくみぼの
おみずが、きれい
でした。



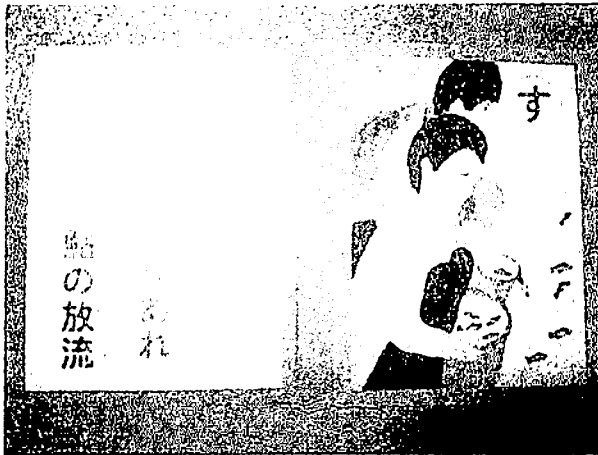
じぞうどうのたきがきれいでした。

出かける前は、環小の周りにある自然や場所について、ほとんど何もわからなかった1年生の児童たち。カルタで何度か遊んでいたが、詠まれた場所をイメージできる児童も少なかった。言葉と絵で覚えていても、実際に行ったことがないので、どんなところか、何があるか、どんな様子かは説明できなかった。

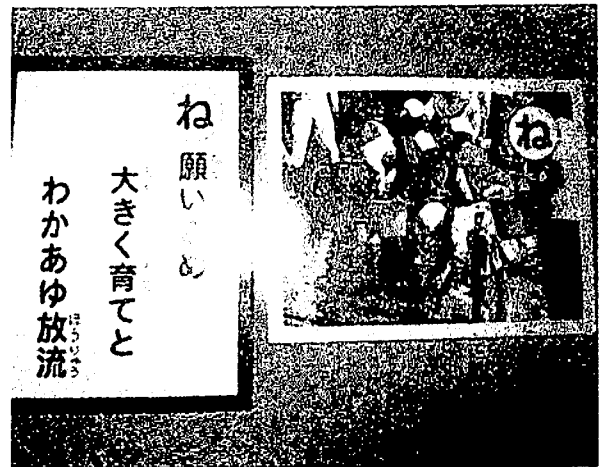
出かけた後に、絵日記を描かせた。担任が行った場所を説明しなくても、「せんせい、しみんのもりであそんだことをかいていいですか。」「じぞうどうのたきは、とてもきれいだったよ。」と自分ですらすらと絵や文章で書くことができた。

児童たちにとって、実際にその場所へ行ってみるのが、地域の自然環境の良さを知るために大切な学びであることがわかった。

若鮎放流（5・6年生の実践）



『新・環ふるさとカルタ』
【すくすくと 大きくなあれ 鮎の放流】



『関豊カルタ』
【お願いこめ 大きく育てと わかあゆ放流】



「大きくなあれ～」
と願いを込めながら、放流しました。



透き通ったきれいな
水の湊川に、放流しま
した。テレビや新聞の
撮影も来ていました。